

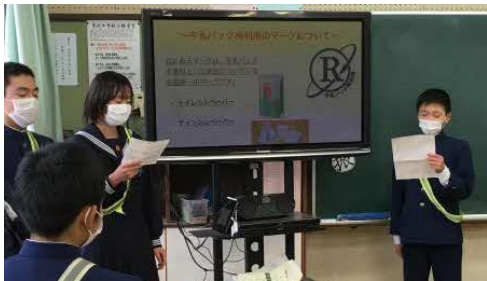


令和2年度（2020年度）学校版環境ISOへの取組  
 < 山鹿市立鹿北中学校 >

## 1 取組の概要

項目	活動の様子（写真）	取組の実際
宣言	<p><b>環境についてのアンケート</b></p> <p>① 昨年度の「学校版環境ISO宣言」を言えますか？          ② 「SDGs」について知っていますか？          ③ 「ボランティア活動」に参加したことありますか？          ④ 「エコキャップ回収」へ参加できましたか？          ⑤ 「無言掃除」の目的を言えますか？</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p><b>鹿北中版環境ISO宣言</b></p> <p>① 「<b>無言掃除+1</b>（プラスワン）」の掃除を行い、気づき考え行動します。          ② 「<b>リサイクル</b>」活動を通して、資源をゴミにしません。          ③ 花を育てて「<b>自然を愛護</b>」していきます。          ④ 地域に花を配付して「<b>地域に貢献</b>」していきます。</p>	<p>宣言項目を決める前に、環境への関心をたずねるアンケート調査を生活環境委員会で実施した。</p> <p>アンケート結果から</p> <p>①「言える」が7%、②「知っている」が14%と学校版環境ISO宣言やSDGsについて意識が高まっていないことが分かる。</p> <p>③「参加したことがある」が72%で高いが、しかし自主的に参加している生徒は少なかった。</p> <p>④「参加できている」が81%と高く、その他のリサイクルに取り組みたいという意見も多かった。</p> <p>⑤「言える」が81%と高い。「気づいたところを相談したいけど無言掃除だからできなかった」という意見も多かった。</p> <p>そこで、左の鹿北中版環境ISO宣言を立てた。</p>
行動	 	<p>【無言掃除+1】これまでは、はじめの挨拶と終わりに感想を述べていた。本年度は、具体的な内容を確認したり、気づいた点を提案したりした。また、掃除中も相談するための会話は積極的に行うように変更した。</p> <p>【リサイクル】エコキャップ回収に加えて、牛乳パック回収を加えた。意識をより高めるためにエコキャップを使ったキャップアートの作成を企画した。</p> <p>【自然愛護・地域貢献】春と秋に種まきから花の苗を育てて、地域を訪問して苗植えを行った。</p>
記録		<p>【無言掃除+1】「今日は、掃除担当のない階段の汚れが気になるので、そこを掃除します。」「駐輪場に鳥の糞が落ちていたので、そこを掃除します。」と周囲に気づき行動できる生徒が増えた。</p>

	 	<p>【リサイクル】新しい取組である牛乳パック回収は、回収率が低かった。そこで、生活環境委員会が牛乳パックのリサイクルについてプレゼンを行い、生徒の関心が高まり回収率が上がってきた。また、エコキャップを使ったキャップアートは、生徒と地域の方が一緒になり取り組み、鹿北町の自然を表現した作品ができた。</p> <p>【自然愛護・地域貢献】本年度は、種からすべての苗を育てることができた。コロナ禍で、地域の家庭を訪問することができなかったのも、生徒が地域を元気にする催し「かほくふれあいデー」で、育てた苗を配布した。</p>
見直し	 <p>はるかのひまわり絆プロジェクト</p>	<p>生徒は、前年の内容を踏襲するのではなく、常に改善していこうと常に前を向いて取り組んできた。</p> <p>宣言項目を立てる際に実施したアンケート調査を年度末に再び実施し、生徒の意識の変容を知ること、今後の活動改善に役立てたい。</p>

## 2 成果と課題

成 果	課 題
<p>○「無言掃除」から「+1の掃除」へ、エコキャップ回収に加えて「牛乳パック集め」と前年度から進化した取組を設定することができ、生徒の環境への意識が更に高まったことが成果である。</p> <p>○校内での取組から地域への貢献へと活動の幅が広がったことが成果である。</p>	<p>△SDGsの認識が不十分であるという課題から、SDGsの目標とISO宣言項目の関連性を図り活動を行ってきた。ポスターなどの掲示物の工夫を行い、より見える化を図り啓発を行う必要がある。</p> <p>△コロナ禍により地域への貢献も予定通り行えなかった。With コロナでの地域への貢献の仕方を考えていく必要がある。</p>